

2012年3月14日

公益財団法人損保ジャパン環境財団

学生が「塩釜」観光マップで復興支援

～ インターシップの経験を活かした復興支援のカタチ ～

公益財団法人損保ジャパン環境財団(理事長 佐藤正敏、以下「損保ジャパン環境財団」)が運営する環境NPOでのインターシップ「CSO ラーニング制度※」に参加している宮城県の大学生7人が、東日本大震災による津波の被害を受けた宮城県塩釜市の商店街を支援するため、観光用ガイドマップ『がまっぷ』を作成しました。『がまっぷ』には、地元のオススメ観光スポットや塩釜の特産品販売店などについての情報が掲載されています。

今後、『がまっぷ』を都内や仙台駅周辺の観光案内所などで配布して、塩釜の魅力を伝えていきます。なお、3月22日に西新宿(東京都新宿区)で、作成にあたった学生たちが『がまっぷ』を配布予定です。

※損保ジャパン環境財団は、環境分野の人材育成を目的に、学生を環境NPOに約8か月間派遣するインターシップ「CSOラーニング制度」を実施しています。2011年度は全国で約70人が参加しています。

1. 『がまっぷ』作成のきっかけ

学生たちが、仙台市内の環境分野のNPO法人で活動するなか、地域を支える観光産業復興の必要性を実感したことが、『がまっぷ』作成のきっかけです。

津波の被害を受けた塩釜市には松島への遊覧船乗場があり、東日本大震災以前は観光地として賑わいを見せていました。震災後、商店は復旧しつつあるものの、観光客は以前に比べて減少したままです。そのため、学生たちが協力して、観光地としての塩釜の魅力を改めて広くアピールすることを目的に、『がまっぷ』を作成することにしました。

2. 『がまっぷ』の概要

仕様: A3版 両面カラー

発行部数: 2,000部

掲載内容: 観光スポットや特産品販売店など

配布場所: 東京都内、仙台駅周辺の観光案内所など

『がまっぷ』配布

3月22日(木)15時から西新宿(東京都新宿区)で、

学生たちが『がまっぷ』を配布予定です。



3. 『がまっぷ』の特長

手にした方に興味を持っていただけるようにポップなデザインを採用しており、塩釜の街を歩きながら確認できるクイズも掲載しています。また、学生たちが、インターシップの中で実際に塩釜の街を歩き、環境に配慮した取り組みや商品の大切さを学んだ様子が伝わってくる内容になっています。